

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年6月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館		
所在地 (電話番号)	静岡市清水区高橋2-9-15 (電話) 0543-66-6655		
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年3月19日		

## 【情報提供票より】( 20年 2月 29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数 18人	
職員数	17 人	常勤6人, 非常勤 11人, 常勤換算 7.765人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設		新築
建物構造	重量鉄骨 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	26,350 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 2月 29日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名	
要介護3	8 名	要介護4	4 名	
要介護5	1 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 85.9 歳	最低	75 歳	最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまだメディカルクリニック、たんぼぼ診療所
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

清水駅より車で10分程度の郊外に位置し、事業所の前には広い畑があり入居者は収穫を楽しみにし散歩などして自然に親しんで生活をしている。ホーム内は大正浪漫風で暖かさを感じる古民家の建材を使用し、落ち着きがある。常に入居者の状態を詳細に把握し、介護計画を職員で作成し充実した生活の支援をしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	玄関が家庭的でないとの改善課題があったが、2階・3階のエレベーター前を玄関とし、お花を飾ったり、利用者の趣味を活かした作品を置く等、家庭的な雰囲気作りに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組んでいるが、課題についての具体的な改善の取り組みがなされていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	年4回、運営推進会議を開催している。内容はホームの活動の報告事項が多い。今後は、更に事業所の取り組みにも理解していただき率直な意見をもらうよう期待する。会議のメンバーからボランティア団体の紹介を受けたり、事業所のイベントなどに積極的に参加してもらえるよう働きかけている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	百葉清水浪漫館だよりを発行し、行事の様子などをお知らせしている。事業所のイベント、家族旅行等に参加して家族の意見を積極的に聞いているが、苦情、不安等については家族会、または外部者に意見として表せるような機会を設けるよう期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。また、地域の中学校の福祉体験で学生がホームを訪れたり、利用者がプラスバンドを聞きに行く等の交流を図っている。今後も地域で開催される活動に積極的に参加されるよう期待したい。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念、ケア方針の他にホームの運営方針を掲げ、地域住民と交流を図り、住み慣れた地域の一員であることを入居者が認識できるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング等で理念の確認をし、職員のヒヤリング時に理念の説明をし、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流を深めるために自治会に入会している。また、中学生の福祉体験を受け入れ、ブラスバンドを聴くなどの交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行い、理解を深め、評価の内容を検討し、改善に向けての取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回会議を実施し、推進会議のメンバーからボランティア団体を紹介してもらい、サービスの向上に活かしている。	○	参加メンバーから出された質問、意見、要望を受け、その経過を話し合い実施されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者(事業者支援担当者)と連絡を取る他、地域包括支援センター開催の会議に参加して情報交換等を行っている。	○	担当者に事業所の実態、考え方を知ってもらい研修会、防災の取り組み強化について共に取り組んで行く事を期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	百葉清水浪漫館だよりを発行し、利用者の生活について家族へ報告している。また、個々に預り金の残高を伝え、金銭管理を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所でのイベント、家族旅行など実施して家族とのコミュニケーションをとっている。	○	家族会で意見、要望は出ているが、個々の不満は職員まで届かず相談されていないので、家族が外部者に意見を表せる機会づくりを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交代、職員の交代があったが利用者の動揺やダメージを最小限にするためにその時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。	○	家族アンケートには、職員の異動や交代後の対応について説明がなく、大変不安であるとの意見があるため、取り組みを期待する。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の認知症研修等を職員が受講できるように計画を立てている。月2回の部署会議で研修内容の報告の機会をつくっている。	○	管理者、計画担当者は認知症介護実践研修を受講しているが、他の職員は受講していないので、全職員のレベルアップの為、取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター開催の会議に参加している。また、法人内の職員が見学に来る際に学習や交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスを利用し、事業所の雰囲気に慣れてもらい、安心して生活ができるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりのこだわり、不安、喜びを理解し、共に買い物に出かけることを重視し、同じ時間を過ごすようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意見、生活歴等から利用者の日常の言動や利用者の意向を把握することを努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的実施しているケアカンファレンス内容を介護計画に取り入れている。介護計画に利用者又は家族の確認印をもらっている。また職員のヒヤリング時、介護計画は常に職員が確認できる体制になっている。	○	関係者が利用者の課題とケア方法を共有し、より良い支援を行うために本人、家族、関係者の意見を反映して作成することを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し時に目標、達成、ケアの進め方(適切)、ケア後の本人の変化満足度などに基づき評価を行っている。利用者の状態の変化によってケアの変更が生じた場合は、家族に十分説明をしている。モニタリング様式に家族の要望欄に記入して確認をとり計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族がホーム内で長時間過ごす場合、家族の食事(夕食)の用意のサービスをしている。近隣の野菜畑の無人販売所への外出支援など臨機応変に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の確認をし、事業所の協力医と共に受診または往診の対応をしている。家族の代理での受診は医師の指示投薬の変更等内容を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在はターミナルケアに対する利用者はいないが、今後利用者と家族の意思、かかりつけ医とも連携方法を検討している。	○	終末期に対する事業所の対応方針について、利用者と家族、医師、看護師、介護士間で連携した取り組みを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対して一人ひとりの尊厳を損ねるような、言葉掛け、対応について職員同士注意をしている。個人情報の取り扱いは徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩は個々のペースに合わせて対応している。昼食後、居室で休む車椅子利用者には、状態確認を行いスムーズに支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望をとり、食事づくりは職員が主に行い、片付けは利用者が行い、食器拭きは出来る利用者は参加している。食事は職員も一緒にケアの必要な利用者と共に食している。	○	実施簿を確認し栄養のバランスを検討しているが、献立の予定を立てる上で、買い物から調理方法に利用者に関わることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後の入浴は自由であり、仲のよい利用者は一緒に入る事もあり、入浴順番は利用者の中で決めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事は個人差はあるが、できるだけ参加するように支援し、利用者はボランティアの参加、月1度の木曜日の歌の時間を楽しみにしている。	○	生活歴を考慮して一人ひとりの楽しみ事や役割をみつけた支援方法を期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、ホームの周りの散歩、ドライブ、買い物等の外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの建物は1階がデイサービス、2、3階がホームであるため1階の玄関は常に鍵が掛かっている。2、3階各階の玄関も鍵が掛かっているため利用者の日々の状態を把握して安全面に配慮し見守りながら支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所内で防災訓練を行っている。	○	消防署、関係機関そして地域住民などの協力体制については、不十分なため、運営推進会議で協力が得られるよう働きかけることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取、食事摂取のチェックリストがあり、個々の摂取状況を把握している。	○	毎日の食事の献立は、職員が利用者に希望を聞き、冷蔵庫の中の物で考えているが、さらに栄養のバランスを考慮し、メニューのバリエーションを増やす工夫を期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の内装は大正浪漫風に造られ、トイレなど落ち着いて利用できる。廊下の明かりは和紙でカバーし、まぶしくないように工夫している。玄関の装飾は利用者が作成し、家庭的な雰囲気を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、カーテンはホームで取り付けている。また、家での生活と同様に、タンス、仏壇などを持参し、居心地よく過ごせるように配慮している。ベッドのまわりには物が置けるように、机など配置し工夫している。		